

令和3年度第2回ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会
会議録

日 時	令和3年11月19日(金) 午前10時から午前11時30分まで
場 所	静岡県庁 別館2階第一会議室D
出席者 職・氏名	<p>委員</p> <p>井上泉(一般社団法人静岡県建築士事務所協会) 小濱朋子(静岡文化芸術大学) 【委員長】 加藤弥生(土筆旅館) 畔柳清光(スズキ株式会社) 鳥原久資(特定非営利活動法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会) 生川友恒(静岡大学) 山崎克巳(静岡県車いす友の会)</p> <p>事務局</p> <p>くらし・環境部県民生活局長 横地眞澄 くらし・環境部県民生活局県民生活課長 若月伸隆</p>
議 題	<p>1 第5次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画評価書(総括評価)案について</p> <p>2 第6次ふじのくにユニバーサルデザイン推進計画案について</p>
配布資料	<p>資料1 : ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会名簿</p> <p>資料2 : 第5次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画評価書(総括評価)案</p> <p>資料3-1 : 第6次ふじのくにユニバーサルデザイン推進計画(概要)案</p> <p>資料3-2 : 第6次ふじのくにユニバーサルデザイン推進計画案</p> <p>資料4 : 第1回推進委員会 御意見・対応案</p>

1 審議事項

- (1) 第5次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画評価書(総括評価)案
- (2) 次期(第6次)ふじのくにユニバーサルデザイン推進計画案

2 審議内容

- (1) 第5次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画評価書(総括評価)案について
(資料2に基づき、事務局より報告)
- (2) 次期(第6次)ふじのくにユニバーサルデザイン推進計画案について
(資料3-1、3-2、4に基づき事務局より報告)

<委員からの意見、助言等>

(井上委員)

- ・次期計画における指標の目標値設定にあたり、どのような整理をしたのか教えていただきたい。
成果指標としている「困っている人を見かけた際に声をかけたことがある県民の割合」は、現状値33%に対して目標値を40%としているが、ハート分野の指標である「ユニバーサルデザイン情報発信回数」は、現状値の倍以上の目標値となっている。

(事務局)

- ・「困っている人を見かけた際に声をかけたことがある県民の割合」は、現計画の目標値33.3%に対し、現状値が33%となっております。そのため、次期計画では、現在の目標値から2割増加を目指し40%を目標値としました。
- ・「ユニバーサルデザイン情報発信回数」は、昨年度新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ユニバーサルデザイン事例の取材等の活動が制限されたため、発信回数が例年の150回程度に対して現状値が81回と減少しました。目標値の設定に当たっては、現在の目標である150回から2割増加を目指し、180回を目標値としました。

(畔柳委員)

- ・「誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると感じる県民の割合」が横ばいとなっている事に関する総括として、「障害のある方や高齢者の社会参加の機会が増えたことによりユニバーサルデザインのニーズが高まった」という記載と「社会的にユニバーサルデザインが認知され当たり前になったことで、社会環境とユニバーサルデザインの実際の整備状況と県民の実感に差が生じている」という記載があるが、それぞれで意味合いが異なるように感じる。
- ・国による法律の整備が進んでいく関係で、新しい設備等の利便性は上がっているが、既存の設備の改修はなかなかできていない。
- ・整備や改修が進んでいる地域がある一方で、進んでいない地域が残っているとといった部分も指標が横ばいとなっている要因になっているのではないか。

(事務局)

- ・記載内容の整合性がとれるよう、見直しを行います。

(畔柳委員)

- ・今まで国は、バリアフリーについては言及していたが、ユニバーサルデザインという言葉あまり使っていないという印象であったが、最近では、ユニバーサルデザインの取組状況等の詳細な資料が示されるなど、ユニバーサルデザインを前面に出してバリアフリー法の改正に触れていたのそのあたりを参考にしていきたい。

(小濱委員長)

- ・「ユニバーサルデザインを知っている県民の割合」が57.2%まで伸びているという整理をしているが、約半数が知っていれば良いのか。
- ・市内は整備が進んでいるが、郊外では進んでいない等の整備状況のギャップがある中で、何をもってユニバーサルデザインが進んだと感じるかという部分を整理する必要があるのではないか。
- ・進展した面だけを捉えるのではなく、進展していない部分にもふれた上で、今後について記載を必要があるように感じる。

- ・「困っている人を見かけた際に声を掛けたことがある県民の割合」が上がれば、目標とする「誰一人取り残さない」ことに、声を掛けることをすれば取り残されないことにつながるのか。
- ・「誰一人取り残さない」ということは、コミュニケーションも含めて双方向で行う必要があり、声を掛けたという部分だけで、目標を設定しているのは気になる。
- ・困っている人がいなければ、声を掛ける必要はなくなるため、計画を通して誰もが困らない事を目指していく中で、声を掛ける事を目標とするのは違和感を感じる。
- ・発信側である声を掛けた側の立場だけでなく、受け手側の立場から、声を掛けられてうれしかったとか自分が孤立していると思う人が減った等の双方向の視点から聞いていかないと成り立たないのではないかと思う。

(事務局)

- ・困っている人を助けるという考え方ではなく、自分や誰もが尊重され自分事としてUDを考えていく必要があると考えております。
- ・コミュニケーションを含め双方向という観点から、発信側だけでなく受け手側の意識等の把握について検討して参ります。

(山崎委員)

- ・仕事をしていても、生活が苦しく食べる物に困っている方達がいる。SDGsの取組にもつながっていくと思われる、フードバンク等により困っている人へのケアを考えていかないといけない。
- ・自分に余裕やゆとりがないと、相手に対して優しくするのは難しいと思うので、そういった部分についても考えてほしい。

(畔柳委員)

- ・国、県、市町の財政が厳しくなっていく中で、今までは行政で対応できていたものが、できなくなったときに、企業や個人の活動によりカバーできるものにしていく必要がある。

(小濱委員長)

- ・SDGsが基盤になって、コミュニティとして動いていく必要が出てきた時に、まだ日本では馴染んでいない。困っている人に声を掛けた人が増えれば、コミュニティとして動いていける人が増えていくのかと考えた時に、指標としては、社会活動等に参加したかといった具体的なものの方が良いのではと思う。
- ・社会参加等について学んでいるかもしれないが、実際の活動に参加するなど、活動に関わることで社会参加を意識をしたかというものをカウントし始めていくのも良いのではないか。

(加藤委員)

- ・若い世代では、ジェンダーについての教育が整っているため理解が深いように感じる。
- ・オリパラが終わり補助金の補助率が下がり、コロナ禍で財政が厳しいため、バリアフリー法等の法律改正が行われても、対応が難しい状況が出てきている。
- ・情報発信を通して、県がどんな事に取り組んでいるかが分かれば、民間と行政が相互に近づいて結びついていくと思う。最終的には、民間が動いていく必要があると思うので、県が情報発信をしていかないと世の中が動いていかないと感じる。

(生川委員)

- ・現在の第5次ユニバーサルデザイン行動計画は、ホームページ上にPDFファイルで公開されており、弱視の方であれば、拡大して見ることができる環境になっているが、スクリーンリーダー等の読み上げソフトを使用している方向けにテキストファイルでの公開や色合いの調整といった機能を取り入れているホームページ等も増えてきているため、この計画を公表する際にはその辺りにも留意をしてほしい。

(鳥原委員)

- ・計画内に、静岡県の「ふじのくに」として、今は実現が難しい内容であっても、2030年はこんな世の中にしていきたいといった記載があっても良いように思う。SDGsではそれが許されるのではないか。
- ・未来の事はだれにも分からないため、将来に向けてこんな世界や社会を作りたいといった記載をしても、将来的に技術等の進展により実現する可能性があるのではないか。
- ・あくまで計画であるため、すべて実現をする必要はないと思うため、未来に向けた発信をしていく方法もあるのではないか。

(畔柳委員)

- ・施策体系の小柱で「～のユニバーサルデザイン」という表現が何回も使用されているが、小柱によっては、「すべての人に配慮した災害時の対応」など具体的な内容に触れた記載となっている。
- ・小柱のため、内容を見れば意図が記載されていると思うが、「～のユニバーサルデザイン」という表現では、内容を省略しているように感じるため、その辺りの表現を見直せないか。

(井上委員)

- ・計画概要をベースとした計画のパンフレットを作成・配布することにより、県民に計画の方針等を示すことができるのではないか。
- ・施策体系の中で、「～のユニバーサルデザイン」という表現を使うと、内容が集約し過ぎてしまうため、表現を変えた方が良いと思う。

(事務局)

- ・施策内容の分かる記載へ、施策体系の表現を見直します。

(小濱委員長)

- ・ユニバーサルデザインをアクティブにしていくための要素などがあると良いように思う。

(事務局)

- ・本日は、貴重な御意見をありがとうございます。いただいた御意見を参考に、次期計画の策定を進めて参ります。